



学びの夏がやってきました！ 府立人研 夏季セミナーへ！

### 特集 夏季セミナー



府立人研だより

第5号

大阪府立学校人権教育研究会  
事務局

2019年7月2日 発行

## 誰一人取り残さない学校の創造

### 7月24日(水) 第1日

	9:30	10:00	12:30	13:30	14:00	17:00
内容	受付	全体会	休憩	受付	分科会	
会場	全体会：大阪市立住まい情報センター			分科会：府立柴島高等学校 校長部会：大阪市立住まい情報センター		

### ◆会場のご案内◆

#### ◆大阪市立住まい情報センター 3階ホール

- Osaka Metro 谷町線・堺筋線・阪急千里線  
「天神橋筋六丁目」駅 3号出口直結
- JR 環状線「天満」駅から北へ約600m



©google

#### ◆府立柴島高等学校

- 阪急京都線「崇禅寺」駅から南へ約300m
- 阪急千里線「柴島」駅から西へ約300m



※ 両会場とも駐車場がありませんので、自動車でのご来場は固くお断りします。  
また、会場への直接のお問い合わせはご遠慮ください。

### ◆参加お申し込みについて◆

- 資料代として当日2,000円が必要です。
- 申し込み方法  
【別紙】申込用紙により、7月12日(金)締め切りで  
FAX(06-6324-3822)またはEメール(furitsujinken@nifty.com)、  
府庁送便の場合は「府立柴島高等学校内 府立人研事務局宛」でお送りください。

### ◆お願い◆

当日は名札と上履き等をお持ちください。



### 第1日 午前 @大阪市立住まい情報センター

7/24

全体会

大阪市立住まい情報センター

(水)

子どもの命をど真ん中に ～地域で“子どもが生きる力”を守る～

講師：荘保 共子さん(NPO法人 こどもの里 理事長)

全体会


10:00

12:30

大学卒業後、教会のボランティアで西成にやってきた荘保さん。そこで、釜ヶ崎の子どもたちの目がキラキラと輝いていたことに驚き、子どもたちの瞳の輝きに魅せられて1977年学童保育所「子どもの広場」を無料でオープンし、現在の「こどもの里」に至る。多様な家庭事情、社会問題を抱える子どもたちと保護者にとっての「居場所」となった「こどもの里」。そこで出会った子どもたちによって、自分が変えられていったという。講演では、映像も交え、子どもの命をど真ん中に、一人ひとりの事情に合わせた支援を行うことで、現在のさまざまな支援活動につながってきたこと、子どもの権利を自覚し守ることがいかに重大であるのか、そして大人が変わり、社会が変わることが何より必要であることをお話しいたします。

★冊子販売あり

第1日 午後 分科会

7/24 (水)  分科会  14:00   17:00	<b>第1セミナー（教材部会）</b>	柴島高校 社会科教室
	<b>テーマ別人権学習『子どもの貧困』グループの取り組みについて</b> 報告：府立西成高校 講師：重江 良樹さん（映画監督）	
	西成高校2年生で行われているテーマ別人権学習。その中の『子どもの貧困』グループでは、様々な背景のある生徒がいる中で、生徒自身の世の中の差別に対する気づきを促し、子どもや親などの個の責任ではなく、社会に焦点を当てて、社会の課題として「貧困」とは何かを教員も生徒とともに考えてきました。グループを担当した初任3年目の教職員の苦悩と気づきをご報告いただきます。さらに、この取り組みを取材した映画『さとにきたらええやん』の監督 重江さんから、取材を通して、また映画を制作する中で感じた、子どもの“リアル”について報告していただきます。	
	<b>第2セミナー（ケーススタディ部会）</b>	柴島高校 福祉実習棟
	<b>学校はどう動くのか？ 動けるのか？</b> ～生徒が自ら助けを求めたとき、私たちの対応は～ 報告：府立池田高校 講師：木岡 剛さん（西成区子育て支援室 課長代理）	
	生徒自らが、こども相談センターなど児童相談所に一時保護を求めたときに、学校や教職員はどういう対応をしたらよいのでしょうか？ 今回ケーススタディ部会では、日ごろ学校と連携をしながら取り組んでいる行政関係者から、「学校」と「行政（市・区役所）」との連携のしかたについて、学びたいと思います。また、学校で実際に対応された生徒支援の内容を報告していただきます。経験年数の少ない先生、担任をしている先生など、どなたも是非ご参加いただきたいと思います。	
	<b>第3セミナー（進路保障部会）</b>	柴島高校 会議室
	<b>進路保障のあり方 ～発達障がい傾向のある生徒の未来へのフォロー～</b> 講師：姫野 桂さん （『発達障害グレーゾーン』『私たちは生きづらさを抱えている 発達障害じゃない人に伝えたい当事者の本音』著者）	
	発達障がいの「傾向はある」けれど「診断はおりない」人がいる。悩みを抱えたまま社会で生きる“グレーゾーン”の人たちに自らも発達障がい者であるルポライターが迫る。「生きづらさ」とは何か？ 「生きづらさ」とはどこにあるのか？ 姫野さんの実体験や取材を通して、当事者たちが編み出した日々を生き抜くためのライフハック（方法、対策、術）をご紹介します。また、近年取材されているジェンダーや貧困等の社会問題についても併せてお話しいたします。みなさま、お待ちしております。★書籍販売あり	

7/24 (水)  14:00   17:00	<b>校長部会</b>	大阪市立住まい情報センター
	<b>人権教育を軸にした学校経営</b> 報告：山田 勝治さん（府立西成高校 校長）、松田 正也さん（府立大手前高校 校長） 近頃、メディアを通じて特定の人々や地域などに対する偏見や差別が拡散される事象が相次いで問題になっています。その偏見や差別が表出する前に誰かが止めることはできなかったのでしょうか？ 学校教育もその責任の一端を担うべき存在です。そこで、今年の校長部会では、以前から反貧困学習、居場所づくり、チーム学校など、様々な人権学習や生徒支援の実践を進めてきた西成高校から報告いただき、さらに発達障がいのある生徒の学びを支援するために新たに通級指導教室を設置した大手前高校から体制づくりなどについてのお話も受けて、参加者のみなさんとともに人権を軸にした学校経営について考えます。	

<b>府立人研</b> 大阪府立学校人権教育研究会
〒533-0024 大阪市東淀川区柴島1丁目7番106号 府立柴島高等学校内
※通送便には「府立人研」とお書きください。
TEL・FAX 06-6324-3822（直通）
※お問い合わせはできる限りEメールをご利用ください。お電話の場合は、火曜日をお願いします。
E-mail <a href="mailto:furitsujinken@nifty.com">furitsujinken@nifty.com</a>
ホームページ <a href="http://furitsujinken.in.coocan.jp/">http://furitsujinken.in.coocan.jp/</a>

\*「府立人研だより」の掲示・配布をお願いいたします。各校の人権教育の充実にお役立ていただけましたら幸いです。\*


7月25日(木) 第2日 @府立柴島高等学校

	9:30	10:00	12:00	13:00	13:30	15:00	15:20	17:00
内容	受付	全体会	休憩	受付	分科会 (第I部)	休憩 移動	分科会 (第II部)	
会場	柴島高校視聴覚室			各分科会場				

第2日 午前


7/25 (木)	全体会	柴島高校 視聴覚室
		<p><b>被差別部落の暮らしと文化 ～阿波木偶箱まわしの場合～</b></p> <p>講師：辻本 一英さん(芝原生活文化研究所 代表、阿波木偶箱まわし保存会 顧問)                  演者：中内 正子さん、南 公代さん(阿波木偶箱まわし保存会)</p> <p>四国の正月を彩った祝福芸の代表「三番叟(さんばそう)まわし」。荒神を拜んだ後、千歳・翁・三番叟で「式三番叟」を演じ、無病息災・五穀豊穡を祈り、「えびす」を舞わして商売繁昌や豊漁を予祝しました。かつて三番叟まわし芸人の多くは徳島県内の被差別部落に居住していました。彼らの芸態は他県に類がなく、徳島県独特の無形文化財です。その祝福芸は、近世から近年に至るまで正月儀礼として定着していましたが、1960年代にはほとんど見られなくなりました。その背景に、戦争と差別、高度経済成長がもたらした環境の変化がありました。これは、徳島県にとどまらず、世界的な課題といえます。「平和・人権・環境」の視点を軸にした「三番叟まわし」の伝承活動を紹介します。</p>
10:00   12:00		

第2日 午後 分科会 人権教育実践・入門セミナー及び教頭部会

7/25 (木)	分科会 第I部 (前半)	柴島高校 会議室
		<p><b>第1工房(文学と人権)</b></p> <p><b>女性の社会進出の歴史を紡ぐ ～田辺聖子の小説を事例に～</b></p> <p>講師：住友 元美さん(大阪樟蔭女子大学 田辺聖子文学館 学芸員、非常勤講師)</p> <p>女性が“学校”という場所で学び、文字を習い、自分の想いを紡ぐ、そこにはどのような意味があったのか？女性の結婚適齢期というものをクリスマスケーキに喩えた四半世紀前の時代まで、20代後半以上の働く女性の労働環境は決して生易しいものではありませんでした。田辺聖子さんは1960年代後半以降、働く女性を主人公とする小説を数多く執筆され、社会の理不尽を指摘し、女性たちを応援してきました。田辺作品を資料として、戦後日本の女性の社会進出(生き方)について考えていきます。</p>
13:30   15:00		柴島高校 福祉実習棟
		<p><b>第2工房(部落問題)</b></p> <p><b>いま、若者が向き合う部落問題とは</b></p> <p>講師：藤本 真帆さん((公財)住吉隣保事業推進協会)、谷岡 裕喜さん((一財)堺市人権協会)</p> <p>「部落って何?」「昔の話じゃないの?」「部落問題って古いし硬いし難しい」「子ども達にどう伝えたらいいかわからない」「部落問題って扱い方がわからない」等、普段疑問に思っているもなかなか聞けないという思いを持っていませんか?さまざまな疑問をはじめ、部落のあんなこと、こんなことを当事者である若者が自分史を交え、講演でよくある質問を取り上げながら今の部落問題について話をします。上記のことで悩んでいる方は何か答えが見つかるかもしれません。</p>
		柴島高校 図書室
		<p><b>第3工房(定通教育)</b></p> <p><b>SSW(スクールソーシャルワーカー)とともに築く 多様な生徒支援</b></p> <p>報告：黒田 尚美さん(大阪府教育庁 チーフSSW)、三木 泉さん(SSW)</p> <p>SSWの専門知識を活かした学校現場での活動にはどのようなものがあるのか。さまざまな現場で活動された話をもとに模索していきたく思います。SSWの多様な支援のあり方や可能性、学校の体制への提言などを、パネルディスカッション形式でうかがいます。教職員とSSW双方からアイデアを出し合っ、さらなる協働の可能性を考えていきましょう。</p>
		柴島高校 社会科教室
		<p><b>第4工房(情報と人権)</b></p> <p><b>そのスマホで何ができるの? スマホを使ってしてもいいこと・あかんこと</b></p> <p>報告：府立人研「情報と人権」チーム</p> <p>スマホの便利さと気軽さは時として「そんな使い方をしていいの?」という場面を引き起こします。GPS機能をオフにしていなかったことや写真に写り込んだ情報から自宅や学校、勤務地等が特定され、それがもとで被害に遭うことも。知らずに使うことで、事件に巻き込まれる可能性もあります。生徒を守るために、生徒に知ってほしいこと、教職員が知っておかなければならないことを学びます。</p>

15:00 — 15:20 休憩・移動



<b>7/25</b> <b>(木)</b>  <b>分科会</b> <b>第II部</b> <b>(後半)</b>  <b>15:20</b> <b> </b> <b>17:00</b>  	<b>第5工房（性差別撤廃教育）</b>	<b>柴島高校 会議室</b>
	<b>ジェンダー・セクシュアリティをめぐる人権課題</b> ～LGBT・セクシュアルマイノリティを中心に～ 講 演：仲岡 しゅんさん（うるわ総合法律事務所）	
	ここ数年、性の多様性に関する様々な言葉（LGBT、セクシュアルマイノリティ、SOGI など）が取り上げられるようになり、その存在が認知されるようになってきました。今回は、弁護士の仲岡しゅんさんをお招きしてジェンダー、セクシュアリティについてお話していただきます。多様な性について学び、当事者の思いを聞き、様々な生徒達とどのように関わっていけばよいのかを考えていく機会になればと思います。	
	<b>第6工房（部落問題）</b>	<b>柴島高校 福祉実習棟</b>
	<b>人権の視点に立った教育の継承と創造 ～部落問題学習を中心に～</b> 報 告：富田 稔さん（天理大学 人間総合教育センター教職課程研究室）	
	教育現場で「部落問題は学校で習ったり、聞いたりしたことはあるけど、どこにあるかわからない。誰がそうかもわからない。だから気になる問題でもないし、差別があるとも思わない。親世代の問題ではないか」という声が聞こえています。「知識」としては知っているが、「顔の見えるつながり」はなく、「リアリティのない学び（出会わない学び）」となっていないでしょうか。そこで、今、部落問題学習においてどのような学びの内容と場を用意しなければならないか、未来へのバトンをつなぐ部落問題学習について講演していただきます。特に教職経験の少ない方の参加をお待ちしています。	
	<b>第7工房（就労支援）</b>	<b>柴島高校 図書室</b>
	<b>インクルーシブな社会の実現に向けて、障がい者就労支援の実践</b> ～クロスジョブの就労支援～ 講 演：大倉 結さん（NPO 法人クロスジョブ クロスジョブ梅田 所長）	
NPO法人クロスジョブは、「障がいのある人の雇用・就労の機会を拡大する事業を行うとともに、地域環境作りのための政策提言や必要に応じた協働事業に取り組むことにより、ノーマライゼーション社会の実現に寄与することを目的とする」団体です。今回は、団体の活動紹介と大学と連携して行っている就労支援「キャンパスチャレンジ」についてお話していただきます。		
<b>第8工房（多文化教育）</b>	<b>柴島高校 社会科教室</b>	
<b>外国（JAPAN）で生きるということ</b> 講 師：平松 マリアさん（とよなか国際交流協会相談員）		
住み慣れたふるさとを離れ、外国で暮らすということとはどのような寂しさ、つらさを伴うのか、そして社会はそのような人々のために何ができるのか…。今回は、とよなか国際交流協会より、フィリピン出身の平松マリアさんをお招きし、どんな想いで外国（日本）に移り、生きてこられたのかをお話しいただきます。その想いを受け止め、教職員として、社会として何ができるのかを一緒に考えてみませんか？		

<b>7/25</b> <b>(木)</b>  <b>14:30</b> <b> </b> <b>17:00</b>	<b>教頭部会</b>	<b>柴島高校 視聴覚室</b>
	<b>つながりをキーワードにしたこれからの人権教育</b> 講 師：小木曾 健さん（GREE 株式会社）、石原 昂侑さん（NPO 法人あそと、SSW）	
	これまでの人権教育を踏まえ、現在進行形の人権課題について考えていきたいと思います。今回は、「SNS（情報モラル）」と「SSW（生徒支援）」という2つのキーワードから、生徒を取り巻く環境に迫り、我々がどのように生徒をサポートできるのか、そして問題解決に向けてどのようにアプローチしていけばよいのか、そのヒントを見つけていきたいと思います。	

**府立人研 大阪府立学校人権教育研究会**

〒533-0024 大阪市東淀川区柴島1丁目7番106号 府立柴島高等学校内

※通送便には「府立人研」とお書きください。

TEL・FAX 06-6324-3822（直通）

※お問い合わせはできる限りEメールをご利用ください。お電話の場合は、火曜日をお願いします。

E-mail [furitsujinken@nifty.com](mailto:furitsujinken@nifty.com)

ホームページ <http://furitsujinken.in.coocan.jp/>

\*「府立人研だより」の掲示・配布をお願いいたします。各校の人権教育の充実にお役立ていただけましたら幸いです。\*